

熊救協



【ご挨拶】 熊本県救護施設協議会会長 藤本 和彦

東京の明治神宮の森は、百年もの間、人の手が入っていない、武蔵野特有の雑木林です。

その中に、明治天皇が昭憲皇后のためにお造りになった御苑があります。ここは江戸時代には加藤家の下屋敷があったところで、加藤清正が掘ったと伝えられる「清正井（加藤井戸）」があり、量的には少量ですが名水が湧き出ています。

群馬に旅し、立ち寄った折、若い外国（西洋）人の方が幾組も見受けられました。説明をしている方の「日本の奥ゆかしさ」が感じられるでしょうという発言が耳に入り、ハット思ったのは「そうだ、救護施設は日本の福祉の中の最も奥の深いところを守備しているのだ」ということでした。

個人的な話になりますが、県庁で障害福祉の仕事に携わっていた頃、障害が軽く手帳がもらえない方の仕事や生活がどうにかならないかという相談があったとき、支援の方法が無く、困り果てていたことを思い出しました。考えてみれば、救護施設の場合は、障害の有無や介護度等の形式的な要件に関係なく、どの施設でも対象にならない人が、保証人も要らずに即日にも入所できる間口が広く、安心して暮らせる奥深い素晴らしい制度です。さらに「生活保護制度の在り方専門委員会報告書」（平成16年12月）では、救護施設の出口について「居宅での保護や他法の専門施設での受け入れ可能な者については、それに移行する通適的な施設」として位置づけられました。熊救協は、救護施設の団体として上部団体とは勿論のこと県社会福祉課や福祉事務所のご指導ご支援の下、これからの新しい時代の福祉に対応して行くための羅針盤の役割もあらうかと思われます。

最後になりますが、業界経験の浅い会長で、御迷惑かけることも多いかと思ひます。会員のみなさまの暖かいご支援・ご協力をお願いし、ご挨拶といたします。



【ご挨拶】 菊池園施設長 小西 守彦

新緑の候、皆様には益々御清栄のこととお喜び申し上げます。

このほど、4月1日から救護施設「菊池園」で施設長として仕事をさせていただくことになりました。微力ではございますが、入所者処遇の充実、自立支援推進並びに施設の適正な運営のために頑張りたいと考えておりますので、よろしくご指導の程をお願い申し上げます。

さて、近年の社会福祉を取り巻く環境は、大きく変動して参りました。平成12年6月の社会福祉基礎構造改革に始まり、介護保健法、障害者自立支援法等の新たな法律の施行などに見られるように、これまでの措置制度から利用・契約制度へと大きく切り変わりました。生活保護制度につきましても見直しが始動され、生活支援資金貸付制度（リバースモーゲージ）の開始、保護基準や級地基準の見直し、母子加算の廃止検討など大きな制度改正が行われて参りました。また「自立」の考え方につきましても「日常生活自立」「社会生活自立」「就労による自立」という三つの考え方が打ち出されました。

救護施設につきましても、これまでの生活扶助を行う機能、在宅での生活が困難な精神疾患による患者・重複障害者等の受け入れ施設としての機能に加え、19年度から始まった精神障害者退院促進支援事業に伴う退院患者の受け入れ先として、また、入所者の地域生活への移行の支援や居宅生活をおくる被保護者に対する生活訓練等の場としての新たな活用が期待されてきております。

菊池園では、救護施設を巡る新しい動きの中で、「利用者個人の尊厳を大切にする。」「利用者個人が心身共に健やかに、かつその人に応じて自立した日常生活を送れるように支援する。」ことを目的に職員一同頑張っているところであります。今後ともよろしくお願い申し上げます。



施設名	施設長名	所在地	定員	開設年月日	電話番号
友愛会銀杏寮	本山 雅徳	熊本市春日5丁目17番36号	60	S35.12.1	096-352-6602
千草寮	大堀 伸治	八代市千丁町太牟田2618	50	S36.7.6	0965-46-0032
しらがね寮	一安 俊範	球磨郡あさぎり町上西835-2	50	S43.4.1	0966-45-6668
天草園	三宅栄一郎	天草市河浦町宮野河内3662-2	70	S43.12.10	0969-78-0053
菊池園	小西 守彦	菊池市泗水町吉富17-1	50	S47.10.11	0968-38-2956
野坂の浦荘	永山 恵一	葦北郡芦北町大字田浦町358-2	50	S55.5.1	0966-87-2277
真和館	藤本 和彦	阿蘇郡西原村大字鳥子3072	50	H18.4.28	096-279-1121

事業検討委員会			
役職名	職名	氏名	施設名
委員長	施設長	大堀 伸治	千草寮
副委員長	生活支援員	松中 直人	天草園
委員	相談員	洲上慎一郎	銀杏寮
〃	生活指導員	和泉 弘子	しらがね寮
〃	介護支援員	養田 正人	菊池園
〃	指導員	平塚 文博	野坂の浦荘
〃	介護職員	森田 良治	真和館

研修委員会			
役職名	職名	氏名	施設名
委員長	施設長	一安 俊範	しらがね寮
副委員長	生活支援員	藤本 健作	天草園
委員	介護スタッフ	大西亜希子	銀杏寮
〃	介護職員	木村 祐子	千草寮
〃	栄養士	濱崎りう子	菊池園
〃	介護支援員	中村 純代	野坂の浦荘
〃	介護職員	田上雄次郎	真和館

調査・研究委員会			
役職名	職名	氏名	施設名
委員長	副施設長	三宅 浩徳	天草園
副委員長	生活支援員	富田 竜二	菊池園
委員	主任	松尾 歩	銀杏寮
〃	介護職員	大嶋みやこ	千草寮
〃	生活指導員	北川 正男	しらがね寮
〃	介護支援員	横尾ひとみ	野坂の浦荘
〃	生活指導員	田浦 久美	真和館

役職員名簿			
役職名	職名	氏名	施設名
会長	施設長	藤本 和彦	真和館
副会長	施設長	永山 恵一	野坂の浦荘
監事	施設長	大堀 伸治	千草寮

祝

平成20年春の叙勲『瑞宝単光章』
田端隆一様(野坂の浦荘)

昭和55年『野坂の浦荘』開設にあたり介護職員として勤務される。当時は介護職員は女性の職種であって、数少ない男性職員であることから、防火管理者、安全運転管理者他を任命され、現在もその職責を果たし、28年の永きにわたり施設入所者が安心して生活できる環境作りや、日常生活支援、福祉サービスの提供に貢献されました。

新任職員紹介

菊池園介護支援員 金子幸代

私は沖縄の専門学校を卒業し、4月から菊池園で勤務しています。まだまだ判らない事も沢山ありますが、職場の先輩方のアドバイス、ご指導のおかげで少しずつではありますが知識や技術を身に付けていくことができています。救護施設は、長い伝統を誇り、幅広いノウハウが蓄積された施設です。利用者の方が安心して生活していける環境を整え、初心を忘れず、成長していきたいと思っています。

熊救協 2008 No12 編集後記

救護施設に人事異動となり、早一年、「あれよ」「あれよ」と過ぎてしまいました。福祉関連の現場の仕事に従事するのは、何もかもが始めてで周りのスタッフの皆さんに大変ご迷惑をかけて参りました。

新たな春を迎えて、接する方の立場を理解し「ちょっとした気づき」の気持ちを忘れることなく、皆様方のご指導を戴きながら微力ですが施設で働く者として入所者の方々の手助けが出来ればと思います。今後とも宜しくお願い申し上げます。

《熊救協調研委員：北川正男(しらがね寮)》

事業検討委員会

【平成19年度事業報告】

19年度は、4月にパークドームにて救護施設交流会を計画、計画通りに実施出来ました。大分・熊本スポーツ交流会については、大分県開催により各施設自由参加とし、熊本県からは4施設が参加しました。

〔救護施設交流会〕

4月にパークドームにて、利用者・職員・来賓・ボランティアによる総勢約270名によるスポーツ交流会を実施しました。種目は、グランドゴルフとニチレクボール。グランドゴルフには、熊本県グランドゴルフ協会より審判ボランティア16名の協力を得て、選手約130名のたいへん大きな大会をスムーズに進行して頂きました。各組には、利用者6名と福祉事務所1名で構成され、普段では出来ない交流が図られました。ニチレクボールについては、施設長チームが圧倒的な強さで予選を勝ち上がり決勝に残る等、仕事を忘れた活躍にたいへん盛り上がり、とても楽しい有意義な交流となりました。

【平成20年度事業計画】

5月に救護施設交流会を植木町の荒木観光ホテルで計画。20年度は、大分・熊本スポーツ交流会の熊本県担当により、大分・熊本スポーツ交流会と救護施設交流会を合併させ、救護施設交流会として実施します。

事業検討委員会

年2回(5月・2月)予定。

研修委員会

【平成19年度事業報告】

〔職員研修会報告〕

- ・第1回 平成19年6月19日(熊本市総合女性センターにて)
 - ・講話 「障がい者自立支援法と生活保護の動向及び救護施設の今後について」 講師 熊本県健康福祉部社会福祉課 有田参事様
 - ・討議 職種別によるグループ討議 (各職種別意見交換会)
- ・第2回 平成19年10月26日(救護施設 真和館)
 - ・施設研修(真和館) ・講話 「精神障がいについて」 (西原村構造改善センターにて) 講師 益城病院 松永医師

〔研修委員会開催〕

- ・第1回 平成19年4月25日(千草寮) ・第2回 平成19年8月28日(真和館)
- ・第3回 平成20年1月18日(銀杏寮) 年3回委員会を開催しました。

〔平成20年度事業計画〕

社会福祉基礎構造改善改革に伴う利用者の権利擁護、情報公開、サービス評価基準、苦情解決制度、福祉新時代に対応していくためには、職員の意識改革並びに職員資質の向上が不可欠であるとともに利用者サービスの質の向上に重点を置き、利用者支援研修、職員研修を実施することで専門職としての資質の向上を図ります。

- ・第1回 平成20年6月19日 みゆきの里(和楽)
 - ・講話 感染予防等について(講師 熊本県健康福祉部健康危機管理課職員) ・討議 感染症予防の職種別によるグループ討議
- ・第2回 平成20年10月23日
 - ・講話 職員のメンタルケアについて(講話については変更あり) 講師 依頼中
 - ・討議 3グループに分けて討議 ※専門職の講師(管理栄養士・理学療法士・ソーシャルワーカー)を各グループに配置

〔研修委員会開催〕

- ・第1回 平成20年4月 ・第2回 平成20年8月 ・第3回 平成21年1月 年3回委員会を開催予定。

調査・研究委員会

【平成19年度事業報告】

- ・熊救協ホームページ開設後、入退所状況をリアルタイムで掲示することにより各福祉事務所との連携もスムーズに取れるようになりました。
- ・掲示板(Q&A)へ書き込みが少ないため次年度は、調研委員も積極的に活用の予定です。

■委員会開催

- ・第1回 平成19年4月23日 ・熊救協ホームページの開設について ・熊救協情報誌(第10号)について
- ・第2回 平成19年9月10日 ・熊救協ホームページの開設について〔項目確認・修正〕
 - ・熊救協情報誌(第11号)について
- ・第3回 平成19年11月2日 ・熊救協情報誌(第11号)編集内容の打合せ
 - ・熊救協ホームページのメニュー新設・更新等について
- ・第4回 平成20年2月 8日 ・平成19年度事業総括 ・平成20年度事業計画

【平成20年度事業計画】

- ・年4回(4月、8月、10月、2月)の会議実施 ・熊救協情報誌12号・13号の発行
- ・熊救協ホームページのメニューに各種マニュアルの掲示
- ※平成20年度はホームページをもっと有効に活かし、他の機関との連携をもっと増やす予定です。

救護施設交流会

■目的

スポーツ及びレクリエーションを通じて、施設利用者の社会適応性を養い、温かい心のふれあいによって生き甲斐を持たせ、施設相互の親睦を深めることを目的としています。

■歴史

救護施設交流会は、約32年前頃に熊本県救護施設の合同交歓会としてスタートしました。長い期間、県社協主催により各施設が担当を持ち回り、1泊2日の日程で文化交流とスポーツ交流を行います。夜は全体による懇親会を開催、担当施設より舞踊等の出し物を行い、救護施設の一大イベントでありました。その後、利用者の状況や時代に合わせ、色々な内容により交流が図られ、県社協主催から救護施設協議会主催への変更、施設負担の軽減と運営の効率化を図るため、施設持ち回りから各施設代表による合同交歓会運営委員会による運営。その後、熊救協の組織下に事業検討委員会が設置され、現在は熊救協主催・事業検討委員会において計画・実施されています。

また、近年の高齢化・重度化等による参加者の減や、現場の介護量増による職員確保等が難しくなり、17年度より事業検討委員会による事業を年3事業から1事業に縮小し現在に至っています。また、大分・スポーツ交流会の熊本県担当年は、その年度の救護施設交流会として実施しています。

■内容

利用者・職員・来賓(県本庁・各福祉事務所)・山鹿市グランドゴルフ協会ボランティアの総勢約250名の参加によるスポーツ交流会。近年、ゲートボール人口が減りグランドゴルフの人气が高まっている状況より、ゲートボール参加チームが減ったため、施設長チームを2チーム結成。県本庁と福祉事務所の職員にも参加して頂き、施設対抗戦で、たいへんな盛り上がりを見せています。結果は、今回も近年安定した強さを誇る菊池園が優勝し連覇を達成しました。

グランドゴルフには約100名が参加。1チーム利用者5名・福祉事務所1名の6名による団体戦にて熱戦が繰り広げられ、天然芝の本格的なコースを福祉事務所と利用者が一緒に楽しみ、普段では出来ない交流が図られ、とても有意義な大会となりました。

表彰は、上位3チームと敢闘賞1チーム、ホールインワン賞が設けられ、受賞者はたいへん喜ばれています。山鹿市グランドゴルフボランティア協会並びに県本庁・福祉事務所の皆様方のご協力、誠にありがとうございました。

ゲートボール風景



表彰式



会話も弾みました♪



九州地区救護施設協議会 会長 後 藤 敏 秀

救護施設交流会は、熊本県と大分県の救護施設利用者の交流会です。この機会を利用して大いに楽しんでいただきたいと思います。

九州地区救護施設協議会の元首藤会長と元小林副会長の雑談中に、利用者の交流としてゲートボール交流会が考えられました。九州地区救護施設の施設長又は職員間の交流の場はありますが、利用者には他県との交流の場がありませんでした。そこで、各施設の利用者が行っているゲートボール競技を通じて、お互いの状況を知る機会を作られました。参加された利用者には、この交流会を通じてより多くの人と知り合いになり、活躍されている利用者のエネルギーを吸収して帰っていただきたいと思います。

また、職員は競技の中で自然に現れる利用者の態度や他の施設職員の支援方法の状況を参考にして、自分達の施設に役に立つ何かがあれば、それを活用してより良い支援に活かしてほしいと思います。この交流会が熊本県と大分県以外にも広がっていくことを願っています。

グランドゴルフ風景

